Press Release

ブライダル総研

RECRUIT 株式会社リクルート

2022年10月26日

結婚総合意識調査2022

- **ウエディングイベントの実施率は回復基調**
  昨年比4.6ポイント増加し 75.7％に
- **結婚式の多様化ニーズが高まる**
  「自分たちに合ったスタイルがあると思う」「よくある披露宴・ウエディングパーティーの形はやりたくない」が広がる
- **ゲストにとって、「結婚式の場」の意味合いが変化**
  昨年よりも「新郎新婦や周囲の人との関係性を確認する場」「人生に向き合う場」の項目が増加

株式会社リクルート（本社：東京都千代田区 代表取締役社長：北村 吉弘）が企画運営する『リクルートブライダル総研』では、結婚や結婚式について詳細を把握するために、「結婚総合意識調査2022」を実施しました。ここに、調査結果の要旨をご報告致します。

1. 既婚編（調査対象：2021年4月～2022年3月に結婚した20～49歳の男女）

ウエディングイベント実施者は75.7%、ウエディングパーティー実施者は59.6%。共に昨年比増加

何らかのウエディングイベントを実施した割合は75.7％で、昨年より4.6ポイント増加。ウエディングパーティーに限定した実施率は59.6％で、こちらも昨年より6.5ポイント増加。（→ P4）

実施者の満足ポイントでは、親、親族、友人とのつながりを実感していることが上昇

披露宴、ウエディングパーティーを実施してよかったと思ったことで昨年よりも増加した主な項目は「準備期間に親と相談したり、一緒に時間を過ごすことができた」「高齢の親族が、当日を楽しみに元気になってくれた」「親・親族との絆が強くなった」。（→ P6）

結婚式観では多様なスタイルを求めるニーズの高まり

- ✓ **「自分たちに合ったウエディングパーティーのスタイルがあると思う」「よくある披露宴・ウエディングパーティーの形はやりたくない」「よくある披露宴・ウエディングパーティーには招待客として出席したくない」が昨年よりも増加。**
- ✓ **「定番やしきたりに捉われず、自分達の価値観にあった自由なやり方をすれば良いと思う」も5割以上存在。**
- ✓ **「挙式」と「披露宴・ウエディングパーティー」のいずれか、もしくは両方の実施者が、その他４イベント以上組み合わせて実施した割合は2020年調査より増加し、昨年と同程度。**（→ P7）

2. ゲスト編（調査対象：2021年4月～2022年3月に結婚式にゲストとして出席した20歳以上の男女）

挙式、披露宴・ウエディングパーティーの参加の抵抗が減った

コロナが理由で挙式、披露宴・ウエディングパーティーへの参加を迷った割合は24.3％と昨年より8.7ポイント減。迷わなかった割合は66.3％と昨年より10.4ポイント増。（→ P8）

コロナ禍で人と集うことの制限が続く中、ゲストが結婚式に参加することを楽しむ気持ちや新郎新婦やゲストに会えることへの期待感がより強くなった

招待されてから出席するまでの気持ちとしては「新郎や新婦とのやりとりを通じて、自分を大切にしてくれていると感じた」「久しく連絡が取れていなかった人とやりとりするきっかけになった」「着ていく衣裳や当日のヘアメイクなどについて考えるなど、準備が楽しかった」が昨年から上昇。（→ P8）

結婚式では、新郎新婦とゲストとの交流の機会がコロナ前より増加

結婚式出席中の気持ちでは「楽しむことができた」をはじめ「新郎新婦とのふれあいや交流があった」「他の招待客とも交流できた」「自分も参加できるしかけや工夫があった」などがコロナ前よりも増加。（→ P9）

ゲストにとっても、結婚式の場の意味合いが変化している

昨年よりも「新郎新婦や周囲の人との関係性を確認する場」ゲスト自身の「人生に向き合う場」といった項目が高まっており、ゲストにとって、結婚式の場の意味合いが変化。（→ P10）

本件に関する お問い合わせ先	https://www.recruit.co.jp/support/form/

■2022年調査の概要[既婚編]

【調査方法】　インターネットによるアンケート調査

＜予備調査（スクリーニング調査）＞

【調査期間】 2022年5月19日(木)～2022年6月10日(金)

【調査対象】 全国16～79歳の男女（株式会社マクロミル　登録モニター）

【有効サンプル数】 26万2,147人

＜本調査＞

【調査期間】 2022年5月23日(月)～2022年6月10日(金)

【調査対象】 “結婚した時期”を「2021年4月～2022年3月」と回答した、20～49歳（調査時）の既婚者

【有効サンプル数】 2,480人

【集計サンプル数】 1,500人

＜集計サンプルの割り付け＞

「厚生労働省 人口動態統計 2019年婚姻件数・夫－妻の結婚生活に入ったときの年齢（各歳）・夫妻の平均婚姻年齢・初婚－再婚・都道府県別」を基に全国を17エリア×性別×年代（計102セル）ごとの婚姻件数比率になるようにサンプル数を割り付けた。

【集計サンプルの性別×結婚時の年齢×居住地域 構成】

		北海道	東北	北関東*	北陸甲信越*	首都圏*	東海*	関西*	中国	四国	九州・沖縄*
男性（人）	20代（19歳含む）	10	18	10	30	99	38	62	24	11	30
	30代	13	20	21	26	89	23	49	14	6	45
	40代	4	6	5	9	31	9	14	6	3	7
女性（人）	20代（19歳含む）	16	27	23	42	133	46	78	30	12	52
	30代	11	15	11	22	71	24	39	11	6	25
	40代	1	3	2	4	20	4	11	3	2	8

*「北関東/男性・女性」「北陸甲信越/男性」「首都圏/男性・女性」「東海/男性」「関西/男性」「九州・沖縄/男性・女性」において、結婚時の年齢を不明処理しているサンプルが各1～4あり、年齢別分析では除いている

■過去調査（2021年調査）の概要

【調査方法】　インターネットによるアンケート調査

＜予備調査（スクリーニング調査）＞

【調査期間】 2021年5月10日(月)～2021年6月4日(金)

【調査対象】 全国16～79歳の男女（株式会社マクロミル　登録モニター）

【有効サンプル数】 26万7,189人

＜本調査＞

【調査期間】 2021年5月20日(木)～2021年6月4日(金)

【調査対象】 “結婚した時期”を「2020年4月～2021年3月」と回答した、20～49歳（調査時）の既婚者

【有効サンプル数】 2,541人

【集計サンプル数】 1,500人

＜配信割り付け＞

「厚生労働省 人口動態統計 2018年婚姻件数・夫－妻の結婚生活に入ったときの年齢（各歳）・夫妻の平均婚姻年齢・初婚－再婚・都道府県別」を基に全国を17エリア×性別×年代（計102セル）ごとの婚姻件数比率になるようにサンプル数を割り付けた。

【集計サンプルの性別×結婚時の年齢×居住地域 構成】

		北海道*	東北	北関東	北陸甲信越*	首都圏*	東海*	関西*	中国	四国	九州・沖縄*
男性（人）	20代（19歳含む）	13	22	17	33	102	35	64	26	10	39
	30代	10	16	16	25	87	28	44	12	9	35
	40代	4	6	4	9	29	9	17	6	1	10
女性（人）	20代（19歳含む）	14	25	21	41	128	48	74	27	11	49
	30代	10	17	13	22	78	19	43	13	7	30
	40代	3	3	3	3	18	6	10	4	2	7

*「北海道/女性」「北陸甲信越/男性・女性」「首都圏/男性・女性」「東海/女性」「関西/男性・女性」「九州・沖縄/男性」において、結婚時の年齢を不明処理しているサンプルが各1～3あり、年齢別分析では除いている

【調査概要】ゲスト編

■2022年調査の概要[ゲスト編]

【調査方法】　インターネットによるアンケート調査

＜予備調査（スクリーニング調査）＞

【調査期間】 2022年5月17日(火)～2022年5月19日(木)

【調査対象】 全国20歳以上の男女（株式会社マクロミル　登録モニター）

【有効サンプル数】 4万人

＜本調査＞

【調査期間】 2022年5月19日(木)～2022年5月29日(日)

【調査対象】 「2021年4月～2022年3月」に結婚式にゲストとして出席したと回答した人

【有効サンプル数】 834人

【集計サンプル数】 800人

＜集計割り付け＞

予備調査で抽出した本調査条件該当者全体（1年以内に結婚式にゲストとして出席した人）の性別・年代ごとの構成比に合わせて、サンプル数を割り付けた。

【集計サンプルの性別×年代 構成】

	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60歳以上	合計
男性（人）	137	99	42	28	109	800
女性（人）	130	78	24	40	113	

■過去調査（2021年／2018年調査）の概要

	2021年調査	2018年調査
調査方法	インターネットによるアンケート調査	インターネットによるアンケート調査
調査期間	1次調査：2021年5月18日（火）～2021年5月24日（月） 2次調査：2021年5月22日（土）～2021年5月27日（木）	1次調査：2018年5月14日（月）～2018年5月18日（金） 2次調査：2018年5月18日（金）～2018年5月21日（月）
調査対象	全国の20～60歳の男女 過去1年間で結婚式にゲストとして出席したと答えた人	全国の20～60歳の男女 過去1年間で結婚式にゲストとして出席したと答えた人
有効サンプル数	1次調査：4万人 2次調査：832人	1次調査：2万人 2次調査：832人

※2020年、2019年はゲスト編の調査非実施

【ウエディングイベント実施率】 既婚編

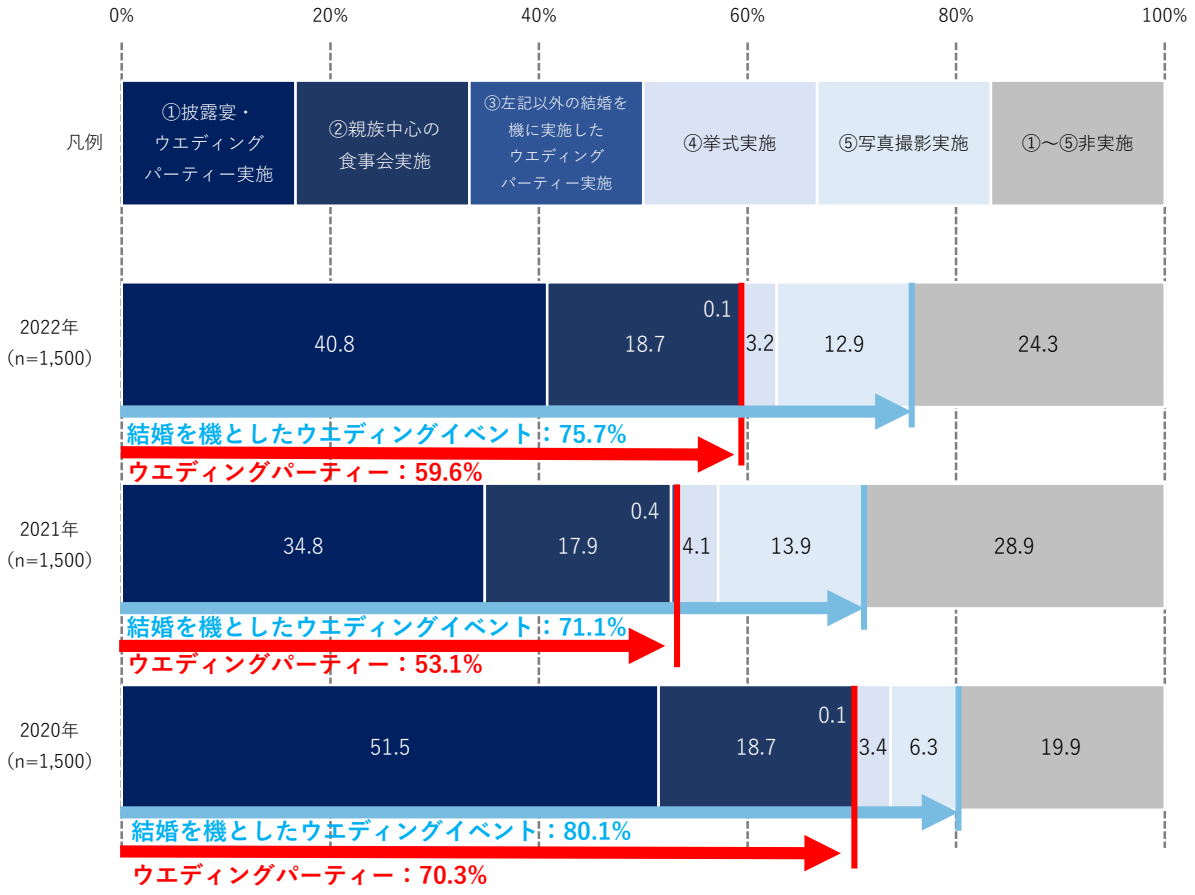
何らかのウエディングイベントを実施した割合は75.7%で、昨年より4.6ポイント増加。

ウエディングパーティーに限定した実施率は59.6%で、こちらも昨年より6.5ポイント増加。

■ 結婚を機としたウエディングイベント実施状況（全体／単一回答）

※ウエディングパーティー：「披露宴・ウエディングパーティー」「親族中心の食事会」「その他のウエディングパーティー」の総称。「結納・顔合わせ」「結婚（挙式）前の祝賀・婚約パーティー」「2次会」の実施は含まない
※実施したイベント（「これから実施する予定（時期や内容もほぼ決まっている）」含む）をいくつでも選択した結果を組み合わせて単一回答化している。組み合わせは以下の通り

- **①披露宴・ウエディングパーティー実施者**：「披露宴・ウエディングパーティー実施かつ、親族中心の食事会、その他のウエディングパーティー、挙式、写真撮影のいずれか、あるいは全て実施」と「披露宴・ウエディングパーティーのみ実施」
- **②親族中心の食事会実施者**：①以外で「親族中心の食事会実施かつ、その他のウエディングパーティー、挙式、写真撮影のいずれか、あるいは全て実施」 と「親族中心の食事会のみ実施」
- **③その他のウエディングパーティー実施者**：①②以外で「その他のウエディングパーティー実施かつ、挙式、写真撮影のいずれか、あるいは全て実施」と「その他のウエディングパーティーのみ実施者」
- **④挙式実施者**：①②③以外で「挙式実施かつ、写真撮影実施」と「挙式のみ実施」
- **⑤写真撮影実施者**：「写真撮影のみ実施」（①②③④非実施）



※図表の構成比（%）は百分率で表示してあります。百分率は小数第2位を四捨五入してあるため、構成比の合計が100%にならない場合があります。

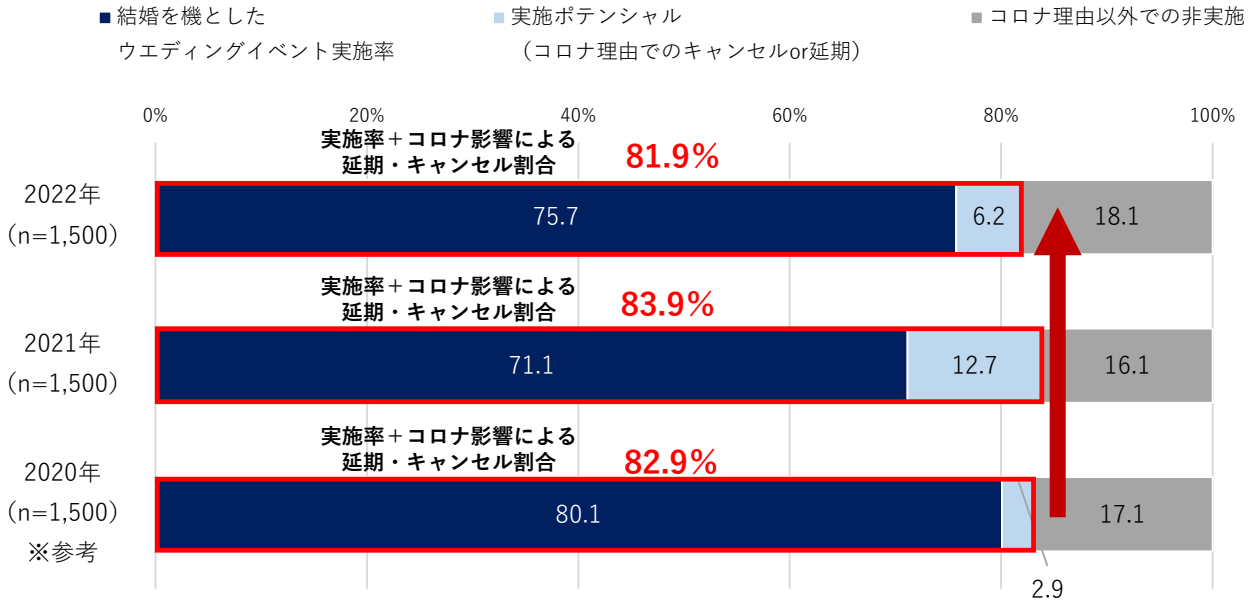
【ウエディングイベント実施率とコロナ影響によるキャンセル・延期の積み上げ】 既婚編

ウエディングイベント実施率に、コロナ影響によるキャンセル・延期を積み上げた割合は経年で横ばい。2020年と比較した実施率の低下はコロナによる影響と考えられる。

■ ウエディングイベントの実施率とコロナ影響によるキャンセル・延期率の積み上げ（コロナ影響によるキャンセル・延期ボリューム）（全体／各単一回答）

※結婚を機としたウエディングイベント非実施者のうち、いずれかのウエディングイベントで「コロナ理由でキャンセルor延期（以下4選択肢いずれか）」と回答した者を「実施ポテンシャル（コロナ理由でのキャンセルor延期）」としてカウントした。
〈新型コロナウイルスの影響を受けた〉
●予約していた会場・プランなどを延期した
●予約していた会場・プランなどをキャンセルした（いつかは実施する予定）
●予約していた会場・プランなどをキャンセルした（これからも実施する予定はない）
●特に予約はしていないが、時期を延期した

※結婚を機としたウエディングイベント：「披露宴・ウエディングパーティー」「親族中心の食事会」「その他のウエディングパーティー」「挙式」「写真撮影」の総称。



※図表の構成比（%）は百分率で表示してあります。百分率は小数第2位を四捨五入してあるため、構成比の合計が100%にならない場合があります。

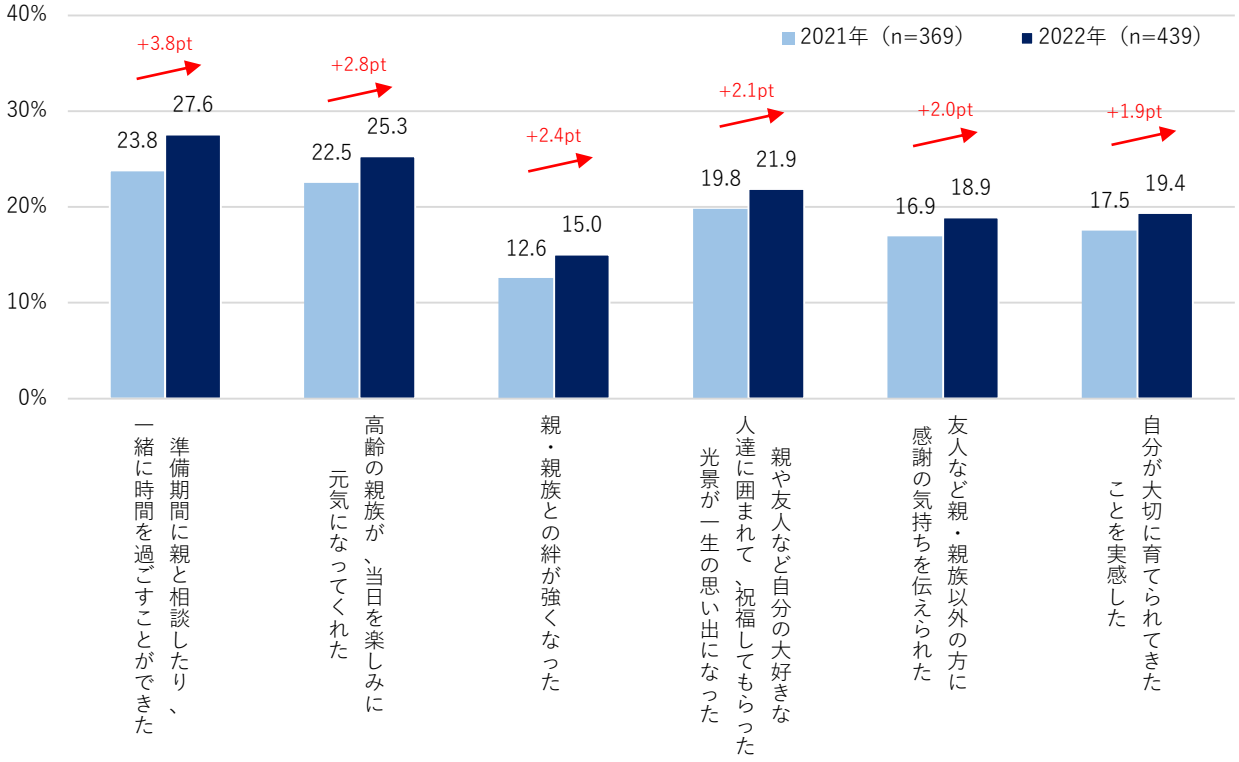
【披露宴・ウエディングパーティーを実施してよかったと思ったこと(上昇項目のみ)】 既婚編

「準備期間に親と相談したり、一緒に時間を過ごすことができた」「高齢の親族が、当日を楽しみに元気になってくれた」「親・親族との絆が強くなった」などが披露宴・ウエディングパーティーの実施満足のポイントとして上昇。

■ **ウエディングイベントを実施して実際によかったと思ったこと（披露宴・ウエディングパーティー実施者／複数回答）**

〈披露宴・ウエディングパーティー〉

※2022年調査と2021年調査とを比べて2022年調査のほうがスコアが高い上位6項目を抜粋
※2022年－2021年の差分スコアで降順ソート

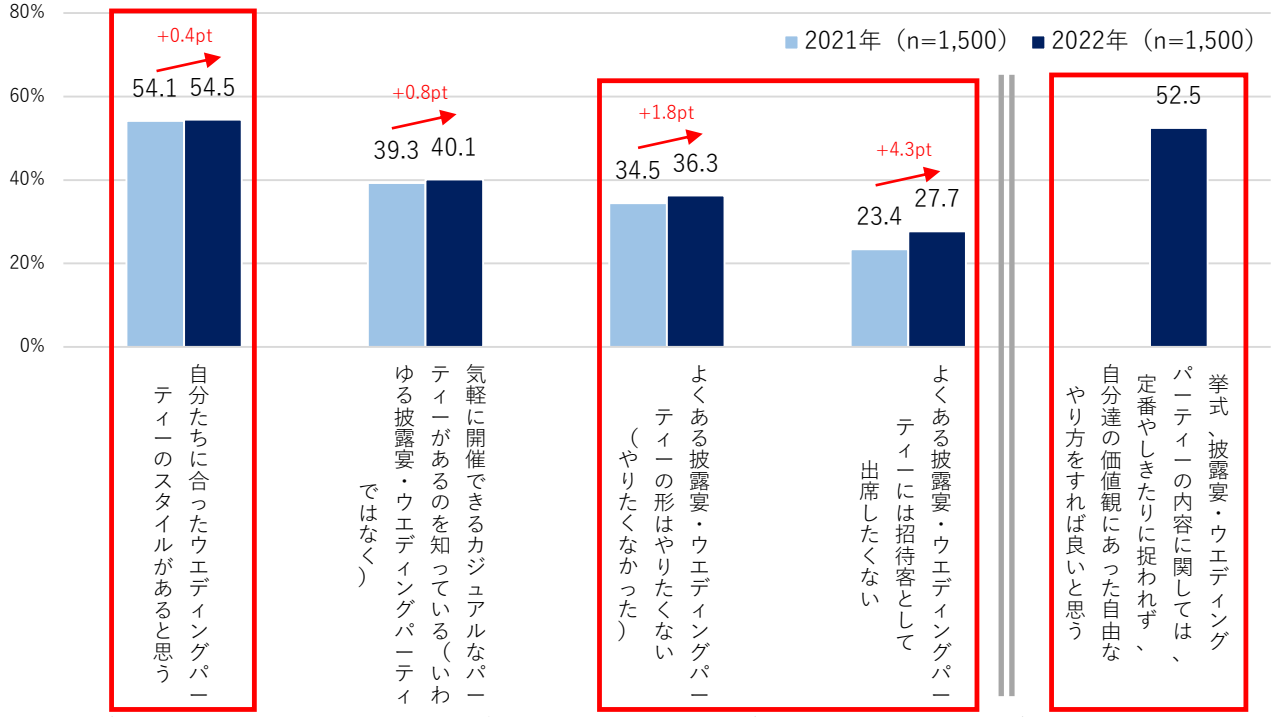


【結婚式観とウエディングイベント組み合わせ数の推移】 既婚編

- 「自分たちに合ったウエディングパーティーのスタイルがあると思う」「よくある披露宴・ウエディングパーティーの形はやりたくない」「よくある披露宴・ウエディングパーティーには招待客として出席したくない」が昨年より増加。ウエディングパーティーの多様なスタイルへのニーズが高まった。
- 「定番やしきたりに捉われず、自分達の価値観にあった自由なやり方をすれば良いと思う」は5割以上。
- 「挙式」「披露宴・ウエディングパーティー」いずれか、もしくは両方の実施者が、その他４イベント以上組み合わせて実施した割合は2020年調査より増加し、昨年と同程度。

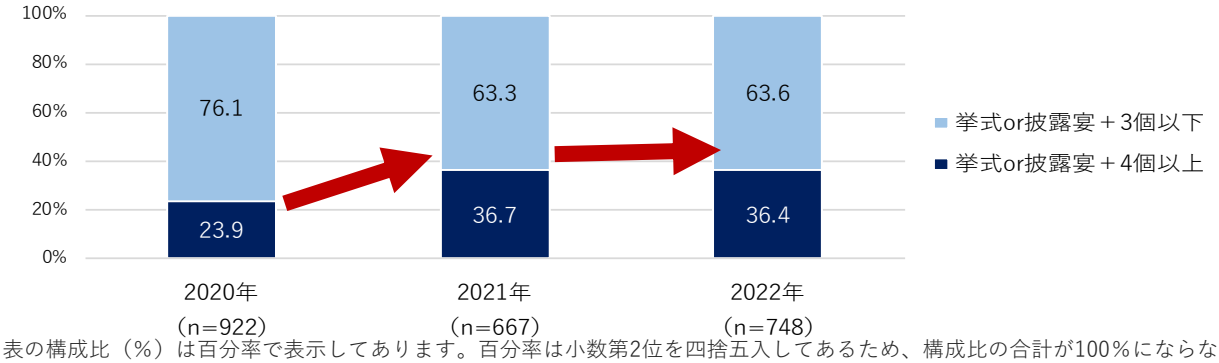
■ 結婚式観（全体／各単一回答）

※下表の数値は、各項目について「非常にあてはまる」「ややあてはまる」「どちらとも言えない」「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」の5段階で尋ねたうち、「非常にあてはまる」＋「ややあてはまる」の合計
※「挙式、披露宴・ウエディングパーティーの内容に関しては、定番やしきたりにとらわれず、自分達の価値観に合った自由なやり方をすれば良いと思う」は2022年より新たに聴取
※2022年調査と2021年調査とを比べて2022年調査のほうがスコアが高い項目、および2022年調査のみ聴取した項目を抜粋
※2022年のスコア降順ソート



■ ウエディングイベント組み合わせ数（挙式or披露宴・ウエディングパーティーいずれか実施者、もしくは両方実施者／単一回答）

※「挙式」「披露宴・ウエディングパーティー」のいずれか、もしくは両方実施しており、かつ以下6つのウエディングイベントを実施した個数をカウントした
- 親族中心の食事会
- その他のウエディングパーティー
- 写真撮影（エンゲージメントフォト・スタジオ撮影・ロケーション撮影・左記以外の結婚を機に実施したウエディングフォト・写真撮影会の4種）

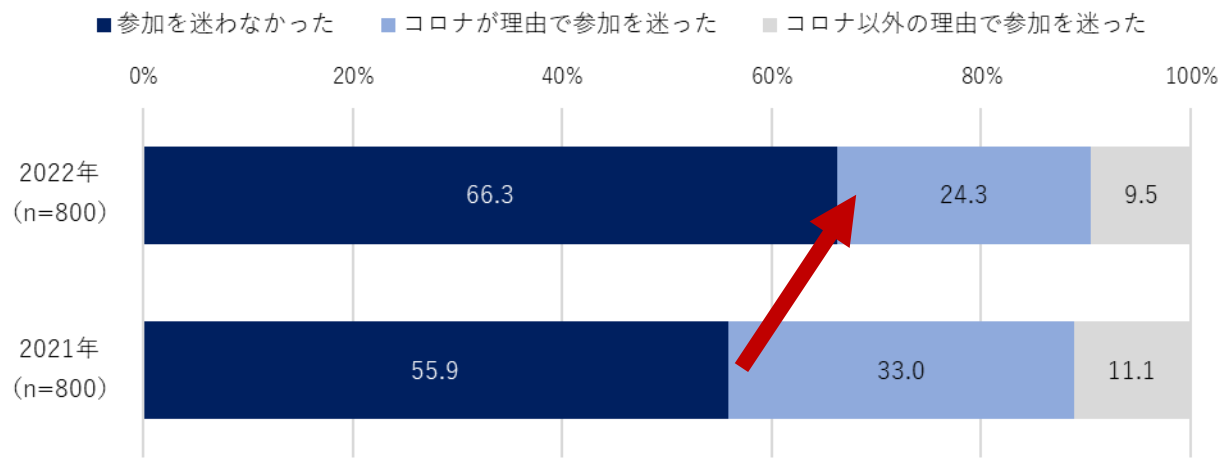


※図表の構成比（%）は百分率で表示してあります。百分率は小数第2位を四捨五入してあるため、構成比の合計が100%にならない場合があります。

【招待されたときのゲストの気持ち（経年比較）】 ゲスト編

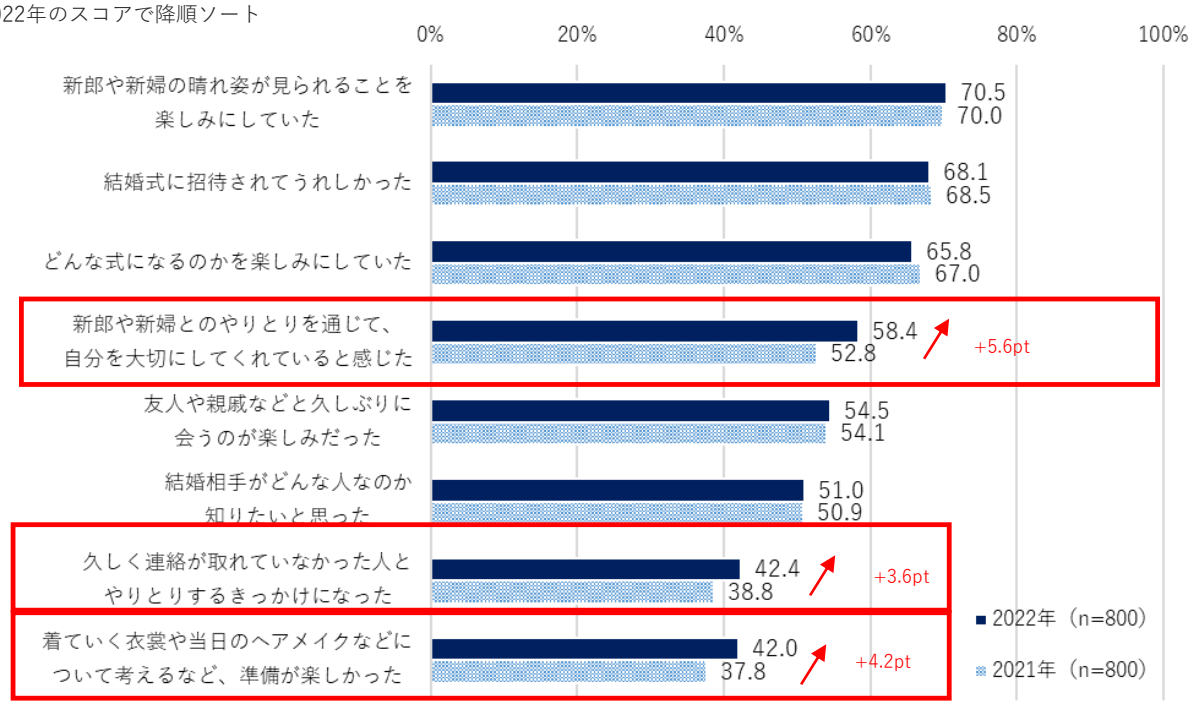
- 2021年4月～2022年3月に出席した「挙式、披露宴・ウエディングパーティー」への「参加を迷わなかった」と答えた割合は、昨年よりも増加。
- 招待されてから出席するまでの気持ちとしては「新郎や新婦とのやりとりを通じて、自分を大切にしてくれていると感じた」「久しく連絡が取れていなかった人とやりとりするきっかけになった」「着ていく衣裳や当日のヘアメイクなどについて考えるなど、準備が楽しかった」が昨年から上昇。

■ ゲストとして出席した「挙式、披露宴・ウエディングパーティー」への参加について（全体／単一回答）



■ 招待されてから出席するまでの気持ち（全体／各単一回答）

※下表の数値は、各項目について「非常にそう思う」「ややそう思う」「どちらとも言えない」「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」の5段階で尋ねたうち、「非常にそう思う」＋「ややそう思う」の合計
※2022年のスコア上位8項目をピックアップ
※2022年のスコアで降順ソート



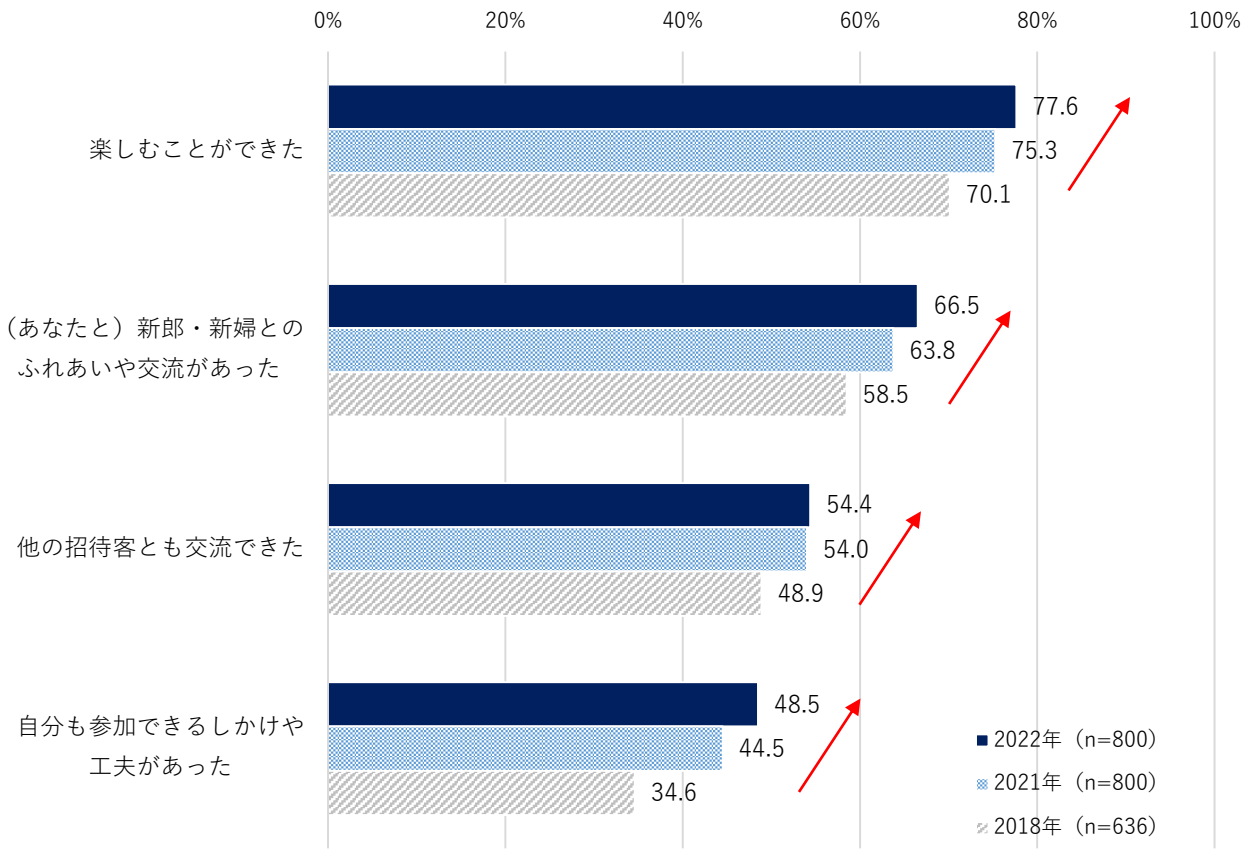
※図表の構成比（%）は百分率で表示してあります。百分率は小数第2位を四捨五入してあるため、構成比の合計が100%にならない場合があります。

【イベント出席中のゲストの気持ち（経年比較）】 ゲスト編

結婚式出席中の気持ちでは「楽しむことができた」をはじめ「新郎・新婦とのふれあいや交流があった」「他の招待客とも交流できた」「自分も参加できるしかけや工夫があった」など、新郎新婦や招待客との交流の機会がコロナ前から増加。

■ ゲストとして出席した「挙式、披露宴・ウエディングパーティー」について出席中の気持ち（全体／各単一回答）

※下表の数値は、各項目について「非常にそう思う」「ややそう思う」「どちらとも言えない」「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」の5段階で尋ねたうち、「非常にそう思う」＋「ややそう思う」の合計
※2022年のスコアで降順ソート



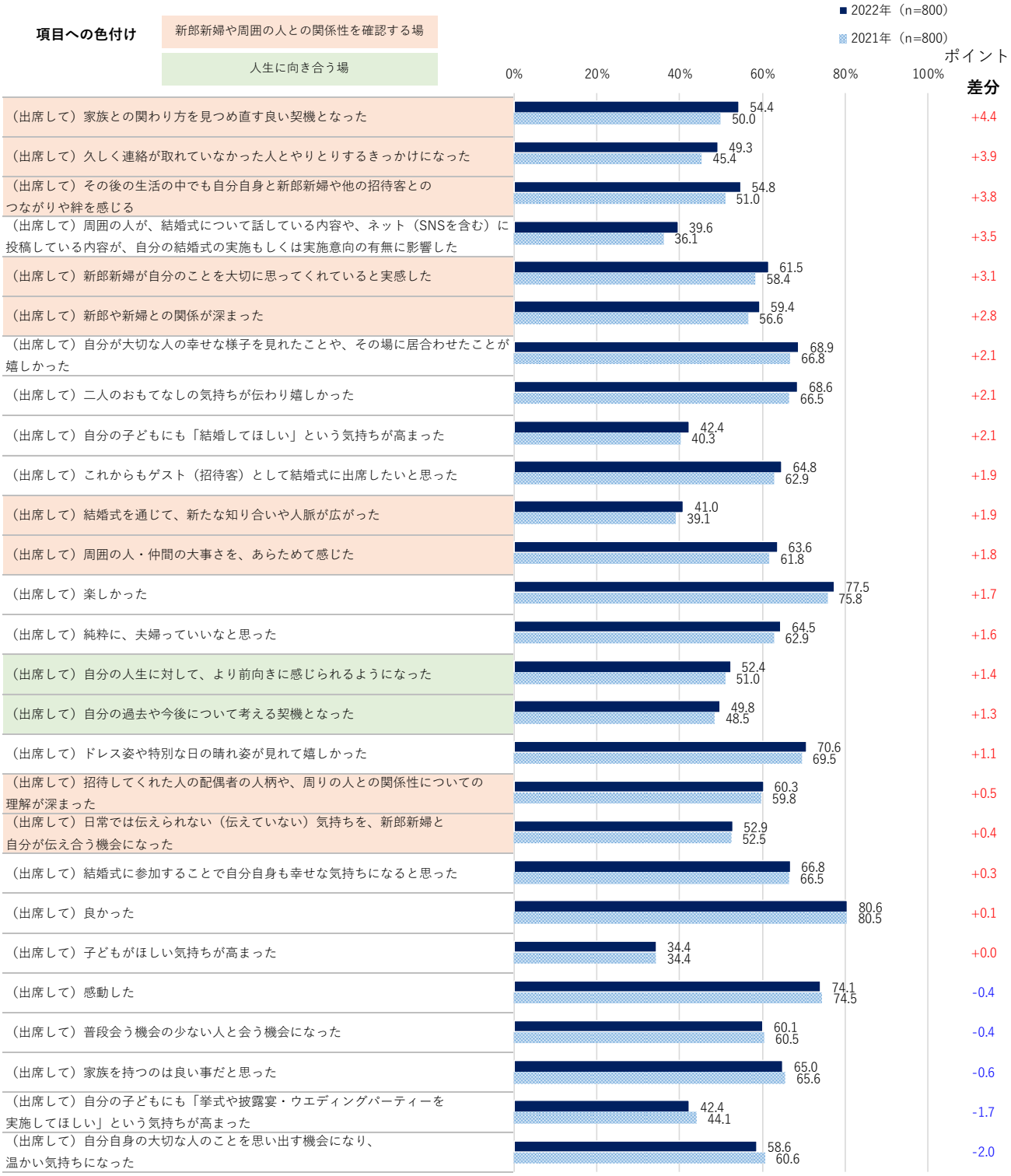
【出席後のゲストの気持ち（経年比較）】

ゲスト編

昨年よりも「新郎新婦や周囲の人との関係性を確認する場」ゲスト自身の「人生に向き合う場」といった項目が高まっており、ゲストにとって、結婚式の場の意味合いが変化した。

■ 出席後のゲストの気持ち（全体／各単一回答）

※下表の数値は、各項目について「非常にそう思う」「ややそう思う」「どちらとも言えない」「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」の5段階で尋ねたうち、「非常にそう思う」＋「ややそう思う」の合計
※2021年と2022年のスコア差分で降順ソート



『リクルートブライダル総研』研究員の解説

コロナ1年目から2年目で実施率の増加

株式会社リクルート
ブライダル総研　研究員
有田 一真

今回の調査は、コロナ禍の2021年4月～2022年3月に結婚をした方が対象となっています。コロナ1年目であった昨年調査期間より緊急事態宣言、まん延防止等重点措置といった行動制限がより長期化した中、引き続き多くの人が新型コロナウイルスの影響を受け、ウエディングパーティーの延期・キャンセルを検討、もしくは決断をしていた中、ウエディングパーティーを実施した割合は昨年より増加しました。新型コロナウイルスの影響の出口が見えない不安感が、実施しなかった人たちの気持ちに影響を及ぼしていたものの、コロナ2年目となり、結婚式業界全体で、新郎新婦・ゲストにとって、安心安全な結婚式を実施するための事例やノウハウが蓄積されてきたことにより、実施検討者の不安が解消されたことも、実施率の昨年比増加につながった要因の一つと思われます。またコロナ前よりウエディングパーティー実施率は戻ってはいませんが、コロナ影響でキャンセル・延期した割合を今年の実施率に積み上げ、本来結婚式を実施する方だったと仮定すると、コロナ前よりその割合は横ばいとなっており、この2年、コロナによってやりたくても実施できなかった層が実施率にもたらした影響は大きいといえ、言い換えれば、コロナ収束により、実施率は戻ってくる可能性があるとも言えます。

ウエディングイベントの多様化ニーズの広がり

「定番やしきたりに捉われず、自分達の価値観にあった自由なやり方をすれば良いと思う」が5割以上、「自分たちに合ったウエディングパーティーのスタイルがあると思う」が昨年よりも増加。ウエディングスタイルの多様化のニーズが高まっています。「挙式」と「披露宴・ウエディングパーティー」のいずれか、もしくは両方の実施者が、４イベント以上組み合わせて実施した割合は2020年調査より増加していることから引き続き、今できる形を模索するのと同時に、実施について迷い、立ち止まったからこそ、自分たちにとっての結婚式の意味や、自分たちらしい結婚式の在り方、表現方法について考えるきっかけとなったことも要因かもしれません。

ゲストにとっての結婚式の価値の高まり

2021年4月～2022年3月の間に、結婚式に参加したゲストへの調査の中で、出席中の「新郎・新婦とのふれあいや交流があった」「他の招待客とも交流できた」「自分も参加できるしかけや工夫があった」など新郎新婦とゲストとの交流の機会がコロナ前よりも増加、また出席後に昨年比よりもアップした項目が非常に多岐にわたり、「新郎新婦や周囲の人との関係性を確認する場」「人生に向き合う場」といった意味合いが変化していました。人と集い語らう場の制限が続く中、新郎新婦はもとより、親、親族をはじめとしたゲストが一堂に会する、集う場の希少性が高まったのと同時に、新郎新婦をはじめとした人とのつながりや気持ちの交流をより大切にし、実感し、ハレの日というかけがえのない時間をよりかみしめながら、結婚式の1日を楽しもうという意識の高まりと、結婚式のプランニングにおいてもきっと、交流の工夫があったのではないかと推察されます。

リクルートグループについて

1960年の創業以来、リクルートグループは、就職・結婚・進学・住宅・自動車・旅行・飲食・美容などの領域において、一人ひとりのライフスタイルに応じたより最適な選択肢を提供してきました。現在、HRテクノロジー、マッチング＆ソリューション、人材派遣の３事業を軸に、60を超える国・地域で事業を展開しています。リクルートグループは、新しい価値の創造を通じ、社会からの期待に応え、一人ひとりが輝く豊かな世界の実現に向けて、より多くの『まだ、ここにない、出会い。』を提供していきます。

詳しくはこちらをご覧ください。
リクルートグループ：https://recruit-holdings.com/ja/　　リクルート：https://www.recruit.co.jp/